

若手社員の1日



■管路管理の果たすべき存在
下水道管の清掃・点検・調査・修繕といった業務は、歴史的にも民間委託が進んでいて、それを手がける企業は全国に数百社以上あるが、特定地域や県内の事業展開がほとんどで、全国に拠点を設ける企業はごく限られている。管清工業はこの流れを牽引して、60年以上にわたる業界を牽引してきた。管清工業の名はこの業界において一つのブランドとして認知されている。

■充実の研修制度
入社から最初の4カ月間は同社の研修施設(厚木の社環境リサーチセンター)で基礎から応用まで一通り学ぶ。この研修施設は「下水道を体験できる」をコンセプトに3年前にオープンしたばかりの施設で、実際の管内配管を再現した模擬管路から地下に広がる下水道管を体感できる。研修用管路まで一通り整備されている。ここで約2週間、点検・調査・清掃等の実技を中心に学ぶ。最後の一カ月間は先輩社員に同行する形で現場のいろはを学ぶ。「十分な時間・設備・環境が整っているが、業務に対する不安を感じることがなかった」と。

■若手の経験を積極的に
創業から100年以上を数える水道機工は、時代の移り変わりに対応しながら、競合ひしめく業界内で発展を続けてきた。そうした中、木村さんが同社を選んだきっかけとしたのが「人柄の良さ」だった。面接や説明会の場に出



■目標に向かって日々前進
一人前の技術者を志し、日々研鑽を積む入社4年目の木村さん。最初の2年間は上下水道施設の設計担当を務め、昨年度から自製品の開発から製造までを一貫して担当プロダクトエンジニアリング部門に配属された。木村さんの一日は、9時に出勤後、仕事の流れを確認する定例ミーティングに参加してから業務が始まる。資料整理などのデスクワークとは別に、実験をメインに行う日は、実験機の設計、流体解析、自社製品の試験などに一日取り組み、退社までに整理したデータを反映して、現在の社内環境を再現する存在になりたいと夢を描きながら、顧客から寄せられるニーズに対応するための改良・実験に取り組んでいる。

木村さんが水分野の仕事に

管清工業

九州支店 公共事業部 工事課 中里 俊哉さん

管路管理トップ企業の誇り

研修制度の充実ぶりに感動を覚えた。このほかにも10回、フロアアップ研修の機会がある。業務スキルやビジネスマナー向上のための研修制度の充実にも力が注がれている。

■一日の流れ

研修で実技スキルや現場知識として民間委託や内系対象とする排水事業部、公共事業部、工事課の二つがある。中里さんは後者の所、工事・調査報告書の作成、現場における主たる現場業務として、下水道管路内をTVカメラ機器で調査する業務や、下水道管の劣化・破損箇所を非破壊的に補修・日進月歩で工法が図られている管路管理業務オペレーター業務

住民の感謝の声がやりがい

新たな挑戦が成長を後押し

き社員と直接会話を交わすにつれて、裏表がない誠実な態度や、強い責任感を持つ仕事に励む姿勢に好印象を受けたという。この気持ちには、入社4年が経つ今も変わらな。チームで取り組む業務が多い中、実験で感じた疑問や疑問を率直に言いやすい環境に加え、積極的な話を聞き入れてくれる上司がいるから、ともに同じ方向を向きたい、若手に考えさせる経験を重視する環境が食欲な成長を後押ししている。



整理したデータを反映



小笠原諸島旅行の際に撮影したデザインマンホール蓋

9:00	出社 定例ミーティング
10:00	デスクワーク/実験
12:00	昼食
13:00	実験
16:00	報告書作成/データ整理
17:30	退社

1日のスケジュール

頑張りが実を結ぶ仕事環境



Suido Kiko

Get into the flow!

流れへ飛び込み、没頭せよ

時間を忘れ、声も届かない。
まるで水の中にいるような。
意識は身体を離れ、
見つめる対象の中へ、奥へ。
水だけを見つめるわたしたちとともに、
学び、育んだ興味や関心の続きに
没頭しよう。

エントリーは
こちらから

マイナビ2026

リクナビ2026

採用サイトはこちら



水道機工株式会社

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘5-48-16